

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	河原デザイン・アート専門学校
設置者名	学校法人河原学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養関係専門課程	ネット動画クリエイター科	夜・通信	18	6	
	3DCGゲーム・アニメ科	夜・通信	36	6	
	グラフィックデザイン科	夜・通信	18	6	
	漫画クリエイター科	夜・通信	16	6	
工業関係専門課程	インテリア・建築デザイン科	夜・通信	12	6	
	インテリア・建築研究科	夜・通信	18	6	
	インテリア・建築専攻科	夜・通信	10	3	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

河原学園閲覧システム シラバス検索にて公開 https://irweb.kawahara.ac.jp/kgsc/syllabus/SyllabusSearch.aspx 上記システムから「実務連携型授業」で抽出が可能

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	河原デザイン・アート専門学校
設置者名	学校法人 河原学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページで公開 https://www.kawahara-gakuen.jp/pdf/yakuin.pdf
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	弁護士	2年	多様な分野における経験や有意義な知見を本法人の教育機関の運営に活かし、自律的な運営を促進する
非常勤	愛媛県議会議員	2年	多様な分野における経験や有意義な知見を本法人の教育機関の運営に活かし、自律的な運営を促進する
非常勤	愛媛県監査委員	2年	多様な分野における経験や有意義な知見を本法人の教育機関の運営に活かし、自律的な運営を促進する
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	河原デザイン・アート専門学校
設置者名	学校法人 河原学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本校において授業計画書は「コマシラバス」という名称で定義され、管理・運用されている。コマシラバスの作成及び改訂は、毎年2月に、教育課程編成委員会の討議を受けた学校運営会議にて作成・改訂方針を決定した後に、3月までに全科目の作成・改訂を完了し、翌年度4月に当校ホームページにおける「シラバス検索」システムで公開し、4月に当年度の各科目第1回目の授業においてそれぞれ学生に配布される。コマシラバスは、配布後にも毎回の授業で参照され活用されている。</p> <p>コマシラバスの作成及び授業利用については、学内共有されている「コマシラバス作成・運用ガイドライン」(以下「ガイドライン」)にもとづき、科目担当者あるいは学科長が担当している。ガイドラインでは、コマシラバスの作成・運用の目的が授業及びカリキュラムの質保証・向上にあることが宣明されるとともに、記載事項と記載方針が詳細に定められている。まず、科目の基本情報として、①学科、②コード、③年度、④学年、⑤期、⑥分野名、⑦科目名、⑧単位、⑨授業形態、⑩実務連携型授業、⑪必修・選択、⑫前提とする科目、⑬展開科目、⑭関連資格、⑮担当教員、ディプロマ・ポリシーとの関連及びカリキュラム・ポリシーとの関連といった項目の記載方法が、さらに、各コマの授業目標、授業主題、授業主題の展開方法や解説手順等の記載方法が示されている。また、成績評価の方法については、試験等の評価方法の他、「履修判定指標」としてその評価指標と評価基準を明示することが定められている。</p> <p>なお、上記「シラバス検索」システムは、本校学生、教職員はもちろん、インターネット環境を利用可能なすべての学外者も検索・閲覧可能となっている。</p>	
授業計画書の公表方法	河原学園閲覧システム シラバス検索にて公開 https://irweb.kawahara.ac.jp/kgsc/syllabus/SyllabusSearch.aspx
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業科目の学修成果の評価は、試験結果による成績評価と単位認定にもとづくことが本校学則及び履修規程、各授業科目のコマシラバスに定められている。</p> <p>試験については履修規程において、試験方法(筆記試験、実技試験、レポート提出、作品提出等)、及び、出席時間数にもとづく受験資格、不正行為の認定と懲戒処分等が定められている。実際に、どの方法によって評価するか、どのような評価指標、評価基準、得点配分によって評価するかは、各授業科目のコマシラバスに記載され、授業科目開始時に周知されている。</p> <p>試験結果による成績評価については履修規程において、S(90点以上)、A(80点~89点)、B(70点~79点)、C(60点~69点)、D(60点未満)の5段階で行い、Cまでを合格として単位認定することが定められている。なお、同じく履修規程において、入学前もしくは他の教育機関による履修成果を本校における履修単位として認定した場合においては、前項の成績評価を「R」とすることが定められている。</p> <p>成績評価による最終的な単位認定については、学校運営会議の議を経て校長が決定することが本校学則に定められている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>総合的な学修成果の把握については、成績評価の方法とともに、GP (Grade Point) 及び GPA (Grade Point Average) を用いた客観的な指標による評価方法が履修規程に定められている。具体的には、まず、授業科目の試験得点にもとづき、S (90 点以上)、A (80 点～89 点)、B (70 点～79 点)、C (60 点～69 点)、D (60 点未満) の 5 段階で成績評価を行い、次に、この成績評価を以下の対照にしたがって GP の得点に換算する方法が定められている。</p> <p>(1) S (90 点以上) GP を 4 点とする (2) A (80 点～89 点) GP を 3 点とする (3) B (70 点～79 点) GP を 2 点とする (4) C (60 点～69 点) GP を 1 点とする (5) D (60 点未満) GP を 0 点とする (6) R (入学前・他の教育機関による学修成果を単位認定した場合)</p> <p>※上記「R」については GP 換算および GPA 算出から除外される。</p> <p>さらに、このように求めたすべての授業科目の GP から、以下の方法により GPA を算出し、各学生のすべての履修に対する総合的な成績評価を行う方法が定められている。</p> <p>GPA = (各授業科目で得た GP × 各授業科目の単位数) の総和 ÷ 履修した授業科目の単位数の総和</p> <p>このように算出された GPA は、学生指導の際の客観的材料としても用いられる。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページで公開 https://idea.kawahara.ac.jp/wp-content/uploads/sites/4/2020/09/cea7c7acb4f895802c4b2d64f94127eb.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校の卒業の認定に関する方針は、本校ディプロマ・ポリシーに示しており、制作者の自己満足に陥らず、地域や顧客の課題を制作テーマとして取り上げ、その解決プロセスをデザインに集約させることができる能力をもって卒業を認定し、専門士を授与するものとしている。具体的には、以下の三つの能力および態度を以ってその要件としている。</p> <p>①「もの創り」の多様な技法や歴史に関する深い知識と高度なデザイン技術を有すること。 ②自己の好悪感覚や狭隘なデザイン観にとらわれず、常に、デザイン消費者の志向性、および、文化・社会の風潮に開かれた広い視野をもち、デザインに期待される使命を果たそうとする価値観を有すること。 ③地域社会や外部関係者との組織的な取り組みに寄与できるような活動能力を有すること。</p> <p>実際の卒業認定の方法については、本校学則にしたがい、所定の課程を修了し所定の単位を修得した者に対して、校長が学校運営会議による確認を踏まえたうえで、卒業を認定し、卒業証書を授与している。さらに、単位の修得については、本校履修規程において、授業科目ごとに試験（筆記試験、口述試験、レポート提出、作品提出、実技試験等）を実施し、その試験結果の得点によって厳正に成績を評価し、単位認定を行うことが定められている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>ホームページで公開 https://idea.kawahara.ac.jp/wp-content/uploads/sites/4/2020/09/cea7c7acb4f895802c4b2d64f94127eb.pdf</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	河原デザイン・アート専門学校
設置者名	学校法人 河原学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html
財産目録	http://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html
事業報告書	http://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html
監事による監査報告（書）	http://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	ネット動画クリエイター科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	101 単位	11 単位	58 単位	32 単位	単位	単位
			単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		16 人	0 人	1	9 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）映像制作の全体の流れを把握し、希望する分野で専門性の高い人材を育成する。①カメラ・三脚・ライト・マイク等の撮影機材に精通し、適切に扱うことができる知識と技術を有する②Photoshop, Illustrator, Premiere, AfterEffects, UnrealEngine など映像等で必要とされるソフトウェアに関する知識を有する③時期・ニーズに即したYouTube等コンテンツの企画、スケジュール管理、外部折衝を円滑に行える知識、経験を有する④SNSでのトレンド、視聴者行動の変化など、特徴を理解して情報発信することができる力を有する。</p> <p>授業方法は講義・演習の形態をとり、授業計画についてはコマシラバスに明記しており、事前に学生に配布・周知している</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）当学科では学期末に筆記試験、実技試験を行い、総合的な学修成果の把握については、成績評価の方法とともに、GP (Grade Point) 及びGPA (Grade Point Average) を用いた客観的な指標による評価方法が履修規程に定められている。具体的には、まず、授業科目の試験得点にもとづき、S (90 点以上)、A (80 点～89 点)、B (70 点～79 点)、C (60 点～69 点)、D (60 点未満) の5段階で成績評価を行い、次に、この成績評価を以下の対照にしたがってGPの得点に換算する方法が定められている。</p> <p>(1) S (90 点以上) GPを4点とする (2) A (80 点～89 点) GPを3点とする (3) B (70 点～79 点) GPを2点とする (4) C (60 点～69 点) GPを1点とする</p>

<p>(5) D (60点未満) GPを0点とする (6) R (入学前・他の教育機関による学修成果を単位認定した場合) ※上記「R」についてはGP換算およびGPA算出から除外される。</p> <p>さらに、このように求めたすべての授業科目のGPから、以下の方法によりGPAを算出し、各学生のすべての履修に対する総合的な成績評価を行う方法が定められている。 $GPA = \frac{\text{各授業科目で得たGP} \times \text{各授業科目の単位数の総和}}{\text{履修した授業科目の単位数の総和}}$</p> <p>このように算出されたGPAは、学生指導の際の客観的材料としても用いられる。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 本校の卒業の認定に関する方針は、本校ディプロマ・ポリシーに示しており、制作者の自己満足に陥らず、地域や顧客の課題を制作テーマとして取り上げ、その解決プロセスをデザインに集約させることができる能力をもって卒業を認定し、専門士を授与するものとしている。具体的には、以下の三つの能力および態度を以ってその要件としている。</p> <p>①「もの創り」の多様な技法や歴史に関する深い知識と高度なデザイン技術を有すること。 ②自己の好悪感覚や狭隘なデザイン観にとらわれず、常に、デザイン消費者の志向性、および、文化・社会の風潮に開かれた広い視野をもち、デザインに期待される使命を果たそうとする価値観を有すること。 ③地域社会や外部関係者との組織的な取り組みに寄与できるような活動能力を有すること。</p> <p>実際の卒業認定の方法については、本校学則にしたがい、所定の課程を修了し所定の単位を修得した者に対して、校長が学校運営会議による確認を踏まえたうえで、卒業を認定し、卒業証書を授与している。さらに、単位の修得については、本校履修規程において、授業科目ごとに試験（筆記試験、実技試験、レポート提出、作品提出等）を実施し、その試験結果の得点によって厳正に成績を評価し、単位認定を行うことが定められている。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要) コマ単位で、授業目標・目標到達プロセスの適正性を追求した授業計画を立てることで、どのような内容を学ぶかを詳細に示すことができ、予習・復習にも活用されている。かつ授業内で授業評価テスト(成績評価には関係しない)を実施し、授業成果を得点化することで、下位学生を毎コマ単位で特定し補習を実施することで慢性的な学業不振に落ち込むことがないよう支援している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	3DCG ゲーム・アニメ科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	114 単位	6 単位	108 単位	単位	単位	単位
			114 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	46 人	0 人	2 人	7 人	9 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）3DCG ゲーム・アニメ科では Maya をベースに 3DCG モデリングの一連の流れとしてモデリング、UV マッピング、リギング、スキニング、テクスチャ制作からモーションまで 3DCG 業界で活躍できる人材を育成する。</p> <p>そのために、1 年次に Photoshop、Illustrator、Maya など、3DCG 業界で必要とされるソフトウェアの基本的な取り扱い方法を学習する。また、時期・ニーズに即したコンテンツの企画、スケジュール管理、外部折衝を円滑に行える理論、経験を習得する科目、3DCG を制作する上で正しく構造を理解できる観察力、立体把握力、空間認識力を鍛える科目を得る。</p> <p>2 年次には 1 年次に履修した基礎的スキルに加えて、ゼットブラシやサブスタンスペインター、Vray、動画編集など更に高度な技術を取得し、業界就職に必要な技術・知識を高め、適した人材育成を行う。</p> <p>授業方法は講義・演習の形態をとり、授業計画についてはコマシラバスに明記しており、事前に学生に配布・周知している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）当学科では学期末に筆記試験、実技試験を行い、総合的な学修成果の把握については、成績評価の方法とともに、GP (Grade Point) 及び GPA (Grade Point Average) を用いた客観的な指標による評価方法が履修規程に定められている。具体的には、まず、授業科目の試験得点にもとづき、S (90 点以上)、A (80 点～89 点)、B (70 点～79 点)、C (60 点～69 点)、D (60 点未満) の 5 段階で成績評価を行い、次に、この成績評価を以下の対照にしたがって GP の得点に換算する方法が定められている。</p> <p>(1) S (90 点以上) GP を 4 点とする (2) A (80 点～89 点) GP を 3 点とする (3) B (70 点～79 点) GP を 2 点とする (4) C (60 点～69 点) GP を 1 点とする (5) D (60 点未満) GP を 0 点とする (6) R (入学前・他の教育機関による学修成果を単位認定した場合)</p> <p>※上記「R」については GP 換算および GPA 算出から除外される。</p> <p>さらに、このように求めたすべての授業科目の GP から、以下の方法により GPA を算出し、各学生のすべての履修に対する総合的な成績評価を行う方法が定められている。</p> $GPA = (\text{各授業科目で得た GP} \times \text{各授業科目の単位数}) \text{の総和} \div \text{履修した授業科目の単位数の総和}$ <p>このように算出された GPA は、学生指導の際の客観的材料としても用いられる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）本校の卒業の認定に関する方針は、本校ディプロマ・ポリシーに示しており、制作者の自己満足に陥らず、地域や顧客の課題を制作テーマとして取り上げ、その解決プロセスをデザインに集約させることができる能力をもって卒業を認定し、専門士を授与するものとしている。具体的には、以下の三つの能力および態度を以ってその要件としている。</p> <p>①「もの創り」の多様な技法や歴史に関する深い知識と高度なデザイン技術を有すること。 ②自己の好悪感覚や狭隘なデザイン観にとらわれず、常に、デザイン消費者の志向性、および、文</p>

<p>化・社会の風潮に開かれた広い視野をもち、デザインに期待される使命を果たそうとする価値観を有すること。</p> <p>③地域社会や外部関係者との組織的な取り組みに寄与できるような活動能力を有すること。</p> <p>実際の卒業認定の方法については、本校学則にしたがい、所定の課程を修了し所定の単位を修得した者に対して、校長が学校運営会議による確認を踏まえたうえで、卒業を認定し、卒業証書を授与している。さらに、単位の修得については、本校履修規程において、授業科目ごとに試験（筆記試験、実技試験、レポート提出、作品提出等）を実施し、その試験結果の得点によって厳正に成績を評価し、単位認定を行うことが定められている。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）一コマ単位で、授業目標・目標到達プロセスの適正性を追求した授業計画を立てることで、どのような内容を学ぶかを詳細に示すことができ、予習・復習にも活用されている。かつ授業内で授業評価テスト(成績評価には関係しない)を実施し、授業成果を得点化することで、下位学生を毎コマ単位で特定し補習を実施することで慢性的な学業不振に落ち込むことがないよう支援している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			
中途退学の現状			
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率	
人	人	%	
(中途退学の主な理由)			
(中退防止・中退者支援のための取組)			

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	グラフィックデザイン科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
2年		101 単位	26 単位	75 単位	単位	単位	単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		71 人	0 人	2 人	13 人	15 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）グラフィックデザイン科では、構図・配色・文字の配置等の基本的なデザインのスキルを保有し、かつクライアントの要望に対して、相応しい媒体で、スケジュール通りに企画提案を行うことができる能力を身につけた人材を育成する。そのために、1年次には基礎的なソフトウェアを扱う科目にて、Illustrator や Photoshop を学び、写真加工の技術や紙面デザインのスキルを身につける。さらに、構成力を身に付ける科目で、文字組やイラスト、写真のレイアウトの知識を学び、より短時間で的確に相手に伝えるスキルを身につける。2年次には、1年次に習得した基本スキルを基に紙面デザイン、商品デザイン、Web デザインなどに展開する。また、卒業作品制作では、実際のクライアントから要望をヒアリングして企画提案する。この科目では、情報の整理、デザイン、プレゼン、スケジュール管理力を向上させる。実践的な取り組みである企業からのデザイン依頼を行うことにより、実際の仕事の流れを身につけ、クリエイティブな業界で通用する人材育成を行う。授業方法は講義・演習の形態をとり、授業計画についてはコマシラバスに明記しており、事前に学生に配布・周知している。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）当学科では学期末に筆記試験、実技試験を行い、総合的な学修成果の把握については、成績評価の方法とともに、GP (Grade Point) 及び GPA (Grade Point Average) を用いた客観的な指標による評価方法が履修規程に定められている。具体的には、まず、授業科目の試験得点にもとづき、S (90 点以上)、A (80 点～89 点)、B (70 点～79 点)、C (60 点～69 点)、D (60 点未満) の 5 段階で成績評価を行い、次に、この成績評価を以下の対照にしたがって GP の得点に換算する方法が定められている。</p> <p>(1) S (90 点以上) GP を 4 点とする (2) A (80 点～89 点) GP を 3 点とする (3) B (70 点～79 点) GP を 2 点とする (4) C (60 点～69 点) GP を 1 点とする (5) D (60 点未満) GP を 0 点とする (6) R (入学前・他の教育機関による学修成果を単位認定した場合)</p> <p>※上記「R」については GP 換算および GPA 算出から除外される。</p> <p>さらに、このように求めたすべての授業科目の GP から、以下の方法により GPA を算出し、各学生のすべての履修に対する総合的な成績評価を行う方法が定められている。</p> $GPA = \frac{(\text{各授業科目で得た GP} \times \text{各授業科目の単位数}) \text{の総和}}{\div \text{履修した授業科目の単位数の総和}}$ <p>このように算出された GPA は、学生指導の際の客観的材料としても用いられる。</p>	

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 本校の卒業の認定に関する方針は、本校ディプロマ・ポリシーに示しており、制作者の自己満足に陥らず、地域や顧客の課題を制作テーマとして取り上げ、その解決プロセスをデザインに集約させることができる能力をもって卒業を認定し、専門士を授与するものとしている。具体的には、以下の三つの能力および態度を以ってその要件としている。</p> <p>①「もの創り」の多様な技法や歴史に関する深い知識と高度なデザイン技術を有すること。</p> <p>②自己の好悪感覚や狭隘なデザイン観にとらわれず、常に、デザイン消費者の志向性、および、文化・社会の風潮に開かれた広い視野をもち、デザインに期待される使命を果たそうとする価値観を有すること。</p> <p>③地域社会や外部関係者との組織的な取り組みに寄与できるような活動能力を有すること。</p> <p>実際の卒業認定の方法については、本校学則にしたがい、所定の課程を修了し所定の単位を修得した者に対して、校長が学校運営会議による確認を踏まえたうえで、卒業を認定し、卒業証書を授与している。さらに、単位の修得については、本校履修規程において、授業科目ごとに試験（筆記試験、実技試験、レポート提出、作品提出等）を実施し、その試験結果の得点によって厳正に成績を評価し、単位認定を行うことが定められている。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要) 一コマ単位で、授業目標・目標到達プロセスの適正性を追求した授業計画を立てることで、どのような内容を学ぶかを詳細に示すことができ、予習・復習にも活用されている。かつ授業内で授業評価テスト(成績評価には関係しない)を実施し、授業成果を得点化することで、下位学生を毎コマ単位で特定し補習を実施することで慢性的な学業不振に落ち込むことがないよう支援している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
41人 (100%)	0人 (0%)	41人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
印刷、出版、広告代理店、デザイン制作プロダクションにデザイナーとして就職			
(就職指導内容) 就職キャリアセンターの就職スタッフによる、ヒアリングや提案を実施。担任教員と情報交換しながら、学生一人ひとりの志望と業界をマッチングさせている。また担任が履歴書の添削、面接練習を徹底し、希望の業界に就職できるようサポートしている。			
(主な学修成果(資格・検定等))			
ビジネス著作権検定 Basic 合格率100% Photoshop クリエイター能力認定試験 合格率88.3% Illustrator クリエイター能力認定試験 77.7%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
77人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 授業評価テストを適時実施し、学生状況の把握や授業の質改善について学科会議および運営会議で協議し、改善を図っている。また出席率や小テストなどの管理による学業不振者への早期フォロー、面談、カウンセリングを定期的実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養関係 専門課程	漫画クリエイター科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
2年		128 単位	14 単位	114 単位	単位	単位	単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		83 人	0 人	4 人	8 人	12 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）漫画クリエイター科では漫画やイラストを主軸とした多種多様な表現方法やデジタルソフトの熟練度を兼ね備えた技術力をもって、様々な業務に適応できる柔軟な思考性を持った人材を育成する。そのために、1年次には漫画の基本的な技術に関連した科目で、漫画のシナリオの考案からネームやコマ割りの法則、アナログでのペンタッチやトーン貼りなどに関する基礎知識を身に付ける。2年次には、デジタル表現としてCLIP STUDIOなどのアニメ・ゲームイラスト開発現場で必須とされるソフトウェアに関する知識を習得することで、デザイン業界での現場業務だけではなく、クラウドワーク環境での依頼も受注し活躍できる力を育成していく。また、一枚の原稿完成に要する時間やイラスト制作における各工程のスケジュール設定など時間の概念を持って作業を行える能力や、出張編集の機会を設けることで、出版社の意向や編集部担当の意見を捉えニーズに沿ったネームや魅力あるキャラクターの特性などを理解し表現する事が出来る柔軟な思考性や交渉力も兼ねたコミュニケーション能力も身に付けていく。</p> <p>授業方法は講義・演習の形態をとり、授業計画についてはコマシラバスに明記しており、事前に学生に配布・周知している。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）当学科では学期末に筆記試験、実技試験を行い、総合的な学修成果の把握については、成績評価の方法とともに、GP（Grade Point）及びGPA（Grade Point Average）を用いた客観的な指標による評価方法が履修規程に定められている。具体的には、まず、授業科目の試験得点にもとづき、S（90点以上）、A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、D（60点未満）の5段階で成績評価を行い、次に、この成績評価を以下の対照にしたがってGPの得点に換算する方法が定められている。</p> <p>（1）S（90点以上） GPを4点とする （2）A（80点～89点） GPを3点とする （3）B（70点～79点） GPを2点とする （4）C（60点～69点） GPを1点とする （5）D（60点未満） GPを0点とする （6）R（入学前・他の教育機関による学修成果を単位認定した場合）</p> <p>※上記「R」についてはGP換算およびGPA算出から除外される。</p> <p>さらに、このように求めたすべての授業科目のGPから、以下の方法によりGPAを算出し、各学生のすべての履修に対する総合的な成績評価を行う方法が定められている。</p> $GPA = (\text{各授業科目で得たGP} \times \text{各授業科目の単位数}) \text{の総和} \div \text{履修した授業科目の単位数の総和}$ <p>このように算出されたGPAは、学生指導の際の客観的材料としても用いられる。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要）本校の卒業の認定に関する方針は、本校ディプロマ・ポリシーに示しており、制作者の自己満足に陥らず、地域や顧客の課題を制作テーマとして取り上げ、その解決プロセスをデザインに集約させることができる能力をもって卒業を認定し、専門士を授与するものとしている。具体的には、以下の三つの能力および態度を以ってその要件としている。</p> <p>①「もの創り」の多様な技法や歴史に関する深い知識と高度なデザイン技術を有すること。 ②自己の好悪感覚や狭隘なデザイン観にとらわれず、常に、デザイン消費者の志向性、および、文化・社会の風潮に開かれた広い視野をもち、デザインに期待される使命を果たそうとする価値観を有すること。</p>	

<p>③地域社会や外部関係者との組織的な取り組みに寄与できるような活動能力を有すること。</p> <p>実際の卒業認定の方法については、本校学則にしたがい、所定の課程を修了し所定の単位を修得した者に対して、校長が学校運営会議による確認を踏まえたうえで、卒業を認定し、卒業証書を授与している。さらに、単位の修得については、本校履修規程において、授業科目ごとに試験（筆記試験、実技試験、レポート提出、作品提出等）を実施し、その試験結果の得点によって厳正に成績を評価し、単位認定を行うことが定められている。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）一コマ単位で、授業目標・目標到達プロセスの適正性を追求した授業計画を立てることで、どのような内容を学ぶかを詳細に示すことができ、予習・復習にも活用されている。かつ授業内で授業評価テスト(成績評価には関係しない)を実施し、授業成果を得点化することで、下位学生を毎コマ単位で特定し補習を実施することで慢性的な学業不振に落ち込むことがないよう支援している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
38人 (100%)	1人 (2.6%)	30人 (78.9%)	7人 (78.9%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>プロ漫画家アシスタント、店舗デザイナーとして就職</p>			
<p>(就職指導内容) 就職キャリアセンターの就職スタッフによる、ヒアリングや提案を実施。担任教員と情報交換しながら、学生一人ひとりの志望と業界をマッチングさせている。また担任が履歴書の添削、面接練習を徹底し、希望の業界に就職できるようサポートしている。</p>			
<p>(主な学習成果 (資格・検定など))</p> <p>ビジネス著作権検定初級 33.3% 色彩士検定 3級 87.5% ビジネス著作権検定 BASIC100%</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
86人	7人	8.1%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>精神的な事由のため。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) 授業評価テストを適時実施し、学生状況の把握や授業の質改善について学科会議および運営会議で協議し、改善を図っている。また出席率や小テストなどの管理による学業不振者への早期フォロー、面談、カウンセリングを定期的実施している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業		工業関係専門課程	インテリア・建築デザイン科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技	
2年		100 単位	38 単位	46 単位	16 単位	単位	単位	100 単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人		44 人	0 人	4 人	11 人	15 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）インテリア・建築デザイン科では、二級建築士相当の基本的な建築知識を保有し、かつ自分のイメージを表現する技術を持ち自分の考えたプランをプレゼンすることができるとともに、工程表を作成する能力とマネジメントを行う上で必要なスケジュールの調整能力を身に付けた人材を育成する。そのために、一年次では二級建築士関連の建築計画・建築法規・建築一般構造などの科目を学ぶことで建築に関する基礎知識を身に付け建築を学ぶための土台を固めていく。さらに表現力に関する科目を学ぶことで手書きやデジタルを用いて表現するための基礎技術を身に付ける。二年次では引き続き二級建築士関連の科目を学ぶことで卒業後に二級建築士を取得できる力を伸ばしていく。さらに表現力に関する科目では応用技術を学び、実践で通用する技術（スキル）を身に付けて自分のイメージを他人に伝える力を育成していく。また、総合的に建築・インテリアを学び実践していく科目で、建築・インテリアについての知識を身に付けてプランニングから制作、プレゼンテーションを通じてプレゼンテーション能力と全体の流れを把握することでスケジュールの調整能力を向上させていき、社会に出た際に通用する人材育成を行う。</p> <p>授業方法は講義・演習の形態をとり、授業計画についてはコマシラバスに明記しており、事前に学生に配布・周知している。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）当学科では学期末に筆記試験、実技試験を行い、総合的な学修成果の把握については、成績評価の方法とともに、GP（Grade Point）及びGPA（Grade Point Average）を用いた客観的な指標による評価方法が履修規程に定められている。具体的には、まず、授業科目の試験得点にもとづき、S（90点以上）、A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、D（60点未満）の5段階で成績評価を行い、次に、この成績評価を以下の対照にしたがってGPの得点に換算する方法が定められている。</p> <p>（1）S（90点以上） GPを4点とする （2）A（80点～89点） GPを3点とする （3）B（70点～79点） GPを2点とする （4）C（60点～69点） GPを1点とする （5）D（60点未満） GPを0点とする （6）R（入学前・他の教育機関による学修成果を単位認定した場合）</p> <p>※上記「R」についてはGP換算およびGPA算出から除外される。</p> <p>さらに、このように求めたすべての授業科目のGPから、以下の方法によりGPAを算出し、各学生のすべての履修に対する総合的な成績評価を行う方法が定められている。</p> $GPA = (\text{各授業科目で得たGP} \times \text{各授業科目の単位数}) \text{の総和} \div \text{履修した授業科目の単位数の総和}$ <p>このように算出されたGPAは、学生指導の際の客観的材料としても用いられる。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要）本校の卒業の認定に関する方針は、本校ディプロマ・ポリシーに示しており、制作者の自己満足に陥らず、地域や顧客の課題を制作テーマとして取り上げ、その解決プロセスをデザインに集約させることができる能力をもって卒業を認定し、専門士を授与するものとしている。具体的には、以下の三つの能力および態度を以ってその要件としている。</p> <p>①「もの創り」の多様な技法や歴史に関する深い知識と高度なデザイン技術を有すること。 ②自己の好悪感覚や狭隘なデザイン観にとらわれず、常に、デザイン消費者の志向性、および、文化・社会の風潮に開かれた広い視野をもち、デザインに期待される使命を果たそうとする価値観を有すること。</p>	

<p>値観を有すること。</p> <p>③地域社会や外部関係者との組織的な取り組みに寄与できるような活動能力を有すること。</p> <p>実際の卒業認定の方法については、本校学則にしたがい、所定の課程を修了し所定の単位を修得した者に対して、校長が学校運営会議による確認を踏まえたうえで、卒業を認定し、卒業証書を授与している。さらに、単位の修得については、本校履修規程において、授業科目ごとに試験（筆記試験、実技試験、レポート提出、作品提出等）を実施し、その試験結果の得点によって厳正に成績を評価し、単位認定を行うことが定められている。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）一コマ単位で、授業目標・目標到達プロセスの適正性を追求した授業計画を立てることで、どのような内容を学ぶかを詳細に示すことができ、予習・復習にも活用されている。かつ授業内で授業評価テスト(成績評価には関係しない)を実施し、授業成果を得点化することで、下位学生を毎コマ単位で特定し補習を実施することで慢性的な学業不振に落ち込むことがないよう支援している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
36人 (100%)	13人 (36.1%)	19人 (52.8%)	4人 (11.1%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>建築業界を中心に設計、施工、営業、現場監督等の職種で就職</p>			
<p>（就職指導内容）就職キャリアセンターの就職スタッフによる、ヒアリングや提案を実施。担任教員と情報交換しながら、学生一人ひとりの志望と業界をマッチングさせている。また担任が履歴書の添削、面接練習を徹底し、希望の業界に就職できるようサポートしている。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>建築CAD検定3級 合格率71.4%</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
58人	0人	0%
<p>（中途退学の主な理由）</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） 授業評価テストを適時実施し、学生状況の把握や授業の質改善について学科会議および運営会議で協議し、改善を図っている。また出席率や小テストなどの管理による学業不振者への早期フォロー、面談、カウンセリングを定期的実施している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業関係専門課程	インテリア・建築研究科				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
2年		100 単位	50 単位	40 単位	10 単位	単位	単位
			100 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		16 人	0 人	4 人	11 人	15 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）インテリア・建築研究科では、豊かな建築・都市環境の創造と保全を通して、産業・地域・生活に貢献できる人材を育成する。そのために、一年次前期では建築計画・建築法規・建築構造・建築施工・二級製図の科目履修することで二級建築士の取得を目指す。一年次後期から二年次の一年半かけて愛知産業大学通信教育部造形学部建築学科科目の中でも建築設計に重点を置き、建築計画や建築デザインを学ぶ科目を中心に履修していく。一年次、二年次とも年間3科目スクーリングを行う。二年次後期では卒業研究を行うことで、総合的に建築の流れを体験することができ、課題の発見から調査・分析を行い、建築的手法による改善策を考えてプランニングから制作、プレゼンテーションを通じてプレゼンテーション能力と全体の流れを把握することでスケジュールの調整能力を向上させていき、社会に出た際に通用する人材育成を行う。</p> <p>授業方法は講義・演習の形態をとり、授業計画についてはシラバスに明記しており、事前に学生に配布・周知している。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）当学科では学期末に筆記試験、実技試験を行い、総合的な学修成果の把握については、成績評価の方法とともに、GP（Grade Point）及びGPA（Grade Point Average）を用いた客観的な指標による評価方法が履修規程に定められている。具体的には、まず、授業科目の試験得点にもとづき、S（90点以上）、A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、D（60点未満）の5段階で成績評価を行い、次に、この成績評価を以下の対照にしたがってGPの得点に換算する方法が定められている。</p> <p>（1）S（90点以上） GPを4点とする （2）A（80点～89点） GPを3点とする （3）B（70点～79点） GPを2点とする （4）C（60点～69点） GPを1点とする （5）D（60点未満） GPを0点とする （6）R（入学前・他の教育機関による学修成果を単位認定した場合）</p> <p>※上記「R」についてはGP換算およびGPA算出から除外される。</p> <p>さらに、このように求めたすべての授業科目のGPから、以下の方法によりGPAを算出し、各学生のすべての履修に対する総合的な成績評価を行う方法が定められている。</p> $GPA = \frac{\text{各授業科目で得たGP} \times \text{各授業科目の単位数の総和}}{\text{履修した授業科目の単位数の総和}}$ <p>このように算出されたGPAは、学生指導の際の客観的材料としても用いられる。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要）本校の卒業の認定に関する方針は、大学併修を行っている愛知産業大学通信教育部のディプロマ・ポリシーに従い、制作者の自己満足に陥らず、地域や顧客の課題を制作テーマとして取り上げ、その解決プロセスをデザインに集約させることができる能力をもって卒業を認定するものとしている。具体的には、以下の三つの能力および態度を以ってその要件としている。</p> <p>① 自然・社会・文化に関する基本的知識を習得するとともに、それらをより広く、深く修得する向上心・探求心と、知識を適切に活用できる能力を身につけていること</p>	

② 建築学における知識・技能・技術を習得し、社会の課題に応じて適切に活用できる力を身につけるとともに、しっかりした職業倫理を持っていること
③ 社会人としての基本的教養と職業倫理を持ち、主体的に問題に取り組むことができること
実際の卒業認定の方法については、本校学則にしたがい、所定の課程を修了し所定の単位を修得した者に対して、校長が学校運営会議による確認を踏まえたうえで、卒業を認定し、卒業証書を授与している。さらに、単位の修得については、本校履修規程において、授業科目ごとに試験（筆記試験、実技試験、レポート提出、作品提出等）を実施し、その試験結果の得点によって厳正に成績を評価し、単位認定を行うことが定められている。
学修支援等
（概要）一コマ単位で、授業目標・目標到達プロセスの適正性を追求した授業計画を立てることで、どのような内容を学ぶかを詳細に示すことができ、予習・復習にも活用されている。かつ授業内で授業評価テスト（成績評価には関係しない）を実施し、授業成果を得点化することで、下位学生を毎コマ単位で特定し補習を実施することで慢性的な学業不振に落ち込むことがないよう支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9人 (100%)	0人 (0%)	9人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 建築業界を中心に設計、施工、営業、現場監督等の職種で就職			
（就職指導内容）就職キャリアセンターの就職スタッフによる、ヒアリングや提案を実施。担任教員と情報交換しながら、学生一人ひとりの志望と業界をマッチングさせている。また担任が履歴書の添削、面接練習を徹底し、希望の業界に就職できるようサポートしている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 特になし。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	0人	0%
（中途退学の主な理由） 特になし。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 特になし。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業関係専門課程	インテリア・建築専攻科				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
1年		46 単位	8 単位	28 単位	10 単位	単位	単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15 人		6 人	0 人	4 人	11 人	15 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）インテリア・建築専攻科では、二級建築士取得を目的とする。そのために、一年次前期では建築計画・建築法規・建築構造・建築施工・二級製図の二級建築士科目を履修することで二級建築士の取得を目指す。また、後期から卒業設計を行うことで総合的に建築・インテリアについての知識を身に付けてプランニングから制作、プレゼンテーションを通じてプレゼンテーション能力と全体の流れを把握することでスケジュールの調整能力を向上させていき、社会に出た際に通用する人材育成を行う。</p> <p>授業方法は講義・演習の形態をとり、授業計画についてはシラバスに明記しており、事前に学生に配布・周知している。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）当学科では学期末に筆記試験、実技試験を行い、総合的な学修成果の把握については、成績評価の方法とともに、GP（Grade Point）及びGPA（Grade Point Average）を用いた客観的な指標による評価方法が履修規程に定められている。具体的には、まず、授業科目の試験得点にもとづき、S（90点以上）、A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、D（60点未満）の5段階で成績評価を行い、次に、この成績評価を以下の対照にしたがってGPの得点に換算する方法が定められている。</p> <p>（1）S（90点以上） GPを4点とする （2）A（80点～89点） GPを3点とする （3）B（70点～79点） GPを2点とする （4）C（60点～69点） GPを1点とする （5）D（60点未満） GPを0点とする （6）R（入学前・他の教育機関による学修成果を単位認定した場合）</p> <p>※上記「R」についてはGP換算およびGPA算出から除外される。</p> <p>さらに、このように求めたすべての授業科目のGPから、以下の方法によりGPAを算出し、各学生のすべての履修に対する総合的な成績評価を行う方法が定められている。</p> $GPA = \frac{\text{各授業科目で得たGP} \times \text{各授業科目の単位数の総和}}{\text{履修した授業科目の単位数の総和}}$ <p>このように算出されたGPAは、学生指導の際の客観的材料としても用いられる。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要）本校の卒業の認定に関する方針は、大学併修を行っている愛知産業大学通信教育部のディプロマ・ポリシーに従い、制作者の自己満足に陥らず、地域や顧客の課題を制作テーマとして取り上げ、その解決プロセスをデザインに集約させることができる能力をもって卒業を認定するものとしている。具体的には、以下の三つの能力および態度を以ってその要件としている。</p> <p>① 自然・社会・文化に関する基本的知識を習得するとともに、それらをより広く、深く修得する向上心・探求心と、知識を適切に活用できる能力を身につけていること</p> <p>② 建築学における知識・技能・技術を習得し、社会の課題に応じて適切に活用できる力を身につけるとともに、しっかりした職業倫理を持っていること</p> <p>③ 社会人としての基本的教養と職業倫理を持ち、主体的に問題に取り組むこと</p>	

<p>ができること</p> <p>実際の卒業認定の方法については、本校学則にしたがい、所定の課程を修了し所定の単位を修得した者に対して、校長が学校運営会議による確認を踏まえたうえで、卒業を認定し、卒業証書を授与している。さらに、単位の修得については、本校履修規程において、授業科目ごとに試験（筆記試験、実技試験、レポート提出、作品提出等）を実施し、その試験結果の得点によって厳正に成績を評価し、単位認定を行うことが定められている。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）一コマ単位で、授業目標・目標到達プロセスの適正性を追求した授業計画を立てることで、どのような内容を学ぶかを詳細に示すことができ、予習・復習にも活用されている。かつ授業内で授業評価テスト（成績評価には関係しない）を実施し、授業成果を得点化することで、下位学生を毎コマ単位で特定し補習を実施することで慢性的な学業不振に落ち込むことがないよう支援している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14人 (100%)	0人 (0%)	14人 (100%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>建築業界を中心に設計、施工、営業、現場監督等の職種で就職</p>			
<p>（就職指導内容）就職キャリアセンターの就職スタッフによる、ヒアリングや提案を実施。担任教員と情報交換しながら、学生一人ひとりの志望と業界をマッチングさせている。また担任が履歴書の添削、面接練習を徹底し、希望の業界に就職できるようサポートしている。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>二級建築士 合格率 58.3%</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	1人	6.7%
<p>（中途退学の主な理由）</p> <p>精神的理由</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組）</p> <p>授業評価テストを適時実施し、学生状況の把握や授業の質改善について学科会議および運営会議で協議し、改善を図っている。また出席率や小テストなどの管理による学業不振者への早期フォロー、面談、カウンセリングを定期的実施している。</p>		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
ネット動画クリエイター科	160,000 円	680,000 円	180,000 円	施設設備費 100,000 円 維持費 80,000 円
3DCG ゲーム・アニメ科	160,000 円	680,000 円	180,000 円	施設設備費 100,000 円 維持費 80,000 円
グラフィックデザイン科	160,000 円	680,000 円	180,000 円	施設設備費 100,000 円 維持費 80,000 円
漫画クリエイター科	160,000 円	680,000 円	180,000 円	施設設備費 100,000 円 維持費 80,000 円
インテリア・デザイン科	160,000 円	760,000 円	180,000 円	施設設備費 100,000 円 維持費 80,000 円
インテリア・建築研究科	160,000 円	600,000 円	180,000 円	施設設備費 100,000 円 維持費 80,000 円
インテリア・建築専攻科	160,000 円	600,000 円	180,000 円	施設設備費 100,000 円 維持費 80,000 円
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページで公表		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 本校は毎年、本校の教育活動および学校運営全般について自己点検評価を実施し、さらに自己点検評価結果の客観性・透明性を担保するために、卒業生、在校生の保護者、高校教員、関連業界企業、地域有識者等からなる学校関係者評価委員会を 8 月に開催し、その評価結果と今後の取り組みを学校関係者評価報告書にまとめ 9 月頃に公開している。 学校関係者評価委員会では、自己点検評価における評価項目 (教育理念・目的・人材育成像、教育活動、学修成果、教育環境、社会貢献・地域貢献等) に即して、評価項目自体が妥当であるか、自己評価結果及び今後の改善方針が適切であるかどうか、前回評価結果に基づく実際の改善活動は適切であったかどうかについて評価を受けている。 学校関係者評価委員会開催後は、校長の指揮の下、評価において指摘された課題事項について改善計画 (年度内の実施計画) を策定し、評価結果とともに学校関係者評価報告書に記載している。昨年度の学校関係者評価では、休退学者の増加等が課題事項となっており、すでに入学前の家庭訪問やカウンセラーとの連携、学習日誌の記載を行うといった取り組みを昨年度中に実施している。 本校は、以上の学校関係者評価の取り組みを通して、情報公開の促進や学校関係者との連携協力による教育活動及び学校運営改善の促進をはかっている。なお、学校関係者評価委員会の運営については本校学校関係者評価委員会規程に定められている。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
在校生保護者	令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日	在校生保護者
セキ株式会社	令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日	就職先企業
南海放送サービス株式会社	令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日	関係業界
漫画家	令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日	関係業界

聖カタリナ学園高等学校 教諭	令和5年4月1日～令和6年3月31日	高等学校
愛媛県建築士事務所協会	令和5年4月1日～令和6年3月31日	関係業界
株式会社総合資格	令和5年4月1日～令和6年3月31日	関係業界
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページで公開 https://idea.kawahara.ac.jp/disclosure/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページで公開 https://idea.kawahara.ac.jp/

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H138320100125
学校名 (〇〇大学 等)	河原デザイン・アート専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人河原学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		65人	62人	65人
内 訳	第Ⅰ区分	47人	45人	
	第Ⅱ区分	11人	14人	
	第Ⅲ区分	7人	3人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				65人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	1人
計	人	0人	1人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	1人
年間計	1人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	6人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	3人	1人
計	人	3人	7人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。